

普及センターだより

No.131

MISATO

発行 宮城県美里農業改良普及センター

〒987-0005 遠田郡美里町北浦字笹館5

TEL (0229) 32-3115 E-mail msnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX (0229) 32-2225 URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

普及の窓

「大崎東部から農業・農村のイノベーションを起こす！」



自動操舵システムによる作業の効率化・正確化

美里農業改良普及センター
総括次長 木村政浩

令和5年のスタートから、1ヶ月が経過しました。新型コロナウイルス感染症に関しても3年が経過し、ウィズコロナに対応した経済活動に変化しています。また、ウクライナ情勢を背景に、エネルギー、食料の大半を海外に依存していること及び為替相場の影響により、日本経済の脆弱性がより明らかになってきました。

そのような環境の中、これまでの農業の常識にとらわれない

大胆な発想と、農業以外の業種の技術と知恵、新しい着眼点での取り組みが重要になってきます。

国においても、新しい資本主義の下、「食料安全保障の強化」「スマート農林水産業等の成長産業化」「農林水産物・食品の輸出促進」「農林水産業のグリーン化」の4本柱で施策を展開していくこととしております。

大崎東部地域においても、子実トウモロコシをはじめとする自給飼料の生産や堆肥の有効活用、食品事業者の国産への切り替えに対応するため、ジャガイモ、ニンジン、小麦など取り組みへの期待が高まっています。

10年後、20年後の大崎東部の農業・農村の姿は、現状の延長線上ではない日本の優れた農業生産技術を活用し、「モノ」を売るだけでなく、「技術」「ノウハウ」を含めた新しい農業、農村を発信していくイノベーションを起こし、若い人があこがれる魅力ある産業、地域に向けて、一緒に取り組んでいきましょう。

令和4年度プロジェクト課題紹介

本年度は3つのプロジェクト課題に取り組みました

土地利用型農業法人の早期経営安定

令和3年度から2か年にわたり、農事組合法人おさとファームの法人経営が早期に安定するよう、経営管理、転作作物の生産安定の二つの面から支援を行っています。

経営管理では、昨年に引き続き法人会計勉強会を開催し、今年度は決算書の解説を行いました。農事組合法人の決算書は利益が分かりにくい構成となっていますが、設備投資を順調に行い、将来への備えも確保していること等、営農の努力が決算書から読み取れる事を説明しました。役員が、財務状況や利益構造について理解を深め、経営の現状を確認したことで、課題の把握や将来像について話し合うきっかけとなりました。

また経営エリアではほ場整備工事が行われており、面工事は終わったものの、まだ暗渠排水工事が行われておらず、畑作物の排水対策が課題となっていました。工事図面や現地調査等を参考に、弾丸暗渠と明渠を用いた効果的な排水方法について助言し、排水技術の習得を支援しました。

来年度は、普及センターの重点活動として、法人の運営支援や営農計画作成、生産技術の支援を行うこととしています。



役員会での技術支援の様子

実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着

「吟のいろは」は、「蔵の華」に続く2つ目の県オリジナル酒造好適米（以下「酒米」）であり、大崎市松山が県内最大の酒米の産地となっています。

酒米の生産を担う「松山町酒米研究会」では、新品種の導入を契機として、地域を盛り上げたいと考えていたことから、普及センターではプロジェクト課題を設定して支援を行ってきました。昨年度までの活動と合わせて3年目となる本年度は、生育目標に近づけ、より細やかな栽培管理を目指して活動してきました。

栽培管理技術確立支援では、4か所の展示ほを設置し、会員や関係機関と協力して生育調査を実施しました。さらに幼穂長調査を行い、過去データも合わせて出穂期を予測し、追肥の適期について情報提供しました。しかし、7月中旬の大雨の影響や、出穂が遅れたこともあり十分な精度の予測ができませんでした。なお、生育状況や分析結果は、県担当課と連携して現地検討会や栽培研修会を開催し、研究会員と共有しました。

関係機関と連携した交流、PR活動では、生産現場の様子を主に実需へ情報発信する「吟のいろは通信」を発行したほか、蔵元や酒販店などとの意見交換を行いました。

次年度は重点活動として「吟のいろは」を含む酒米の高位安定生産を目指して研究会への支援を継続します。



現地検討会の様子

土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定

管内5農業生産法人及びJA新みやぎ小牛田営農センターと連携し、本プロジェクト活動を実施しました。

今年度は、ほ場の湿害リスク調査による排水対策効果の把握や肥大性があり割れにくい品種の選定と出荷時期延伸のための作型拡大、適期播種及び病害虫防除の励行など、水田転作及び加工業務用途に適した生産技術の向上に取り組みました。

排水性調査では湿害リスクが低いとされたほ場が多かったものの、夏作は令和4年7月の大雨被害で大幅減収になりました。来年度は表面水の速やかな排出等の対策を徹底するなどの支援を継続していきます。

また、各種調査により水田転作に適した品種を把握でき、また、夏作の病害発生は概ね抑えられましたが、作型の拡大や冬作の害虫防除については課題が残りました。

安定生産及び生産拡大に向けた新たな販路の確保とあわせて、来年度も引き続き活動を行っていきます。



冬作にんじん収穫の様子

農林水産省・「肥料価格高騰対策事業（春肥分）」の概要について

農作物生産において必要不可欠な農業資材である肥料は、その原料の多くを海外に依存しており、国際市況の影響を強く受けています。そこで、肥料価格高騰による農業者への影響の緩和と化学肥料使用量の低減を進めるため、化学肥料の使用量の2割削減に向けて取り組む農業者に対し、肥料費上昇分の一部（前年度から増加した肥料費の7割、県内在住の農業者は8.5割）を支援する「肥料価格高騰対策事業（春肥分）」について、お知らせします。

事業の申請に当たっては、有機質肥料や堆肥の利用、生育診断に基づく施肥設計などの化学肥料低減に関する17種類の取り組みメニューから、2つ以上に取り組んでいただきます。

なお、作付面積の大半で有機JAS認証や特別栽培農作物の認証（県認証）を受けている方などは、その取り組みを証明する書類があれば本事業に申請することができます。

支援対象となる肥料費は「令和4年11月～令和5年5月までに注文又は当用買い（さしあたり使う分だけ購入）したもので、5戸以上の農業者グループ（JAや肥料販売店なども可）で申請いただきます。

申請期限は、肥料をお求めのJAや肥料販売店など、農業者グループにお問合せください。なお、農業者グループから宮城県農業再生協議会への申請期限は、令和5年7月31日です。

宮城県病害虫防除所から 『メルマガ』配信開始！



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

【登録方法】

QRコードまたはURLからホームページの登録フォームにアクセスできます。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/mail-magazine.html>

「宮城県病害虫防除所」で検索してください。

※本メルマガに対する通信費は自己負担となります。

不明な点は、宮城県病害虫防除所（TEL：022-275-8982）まで、お問い合わせください。



重点的な普及活動の紹介

活動項目	内 容	対 象
新規就農者の確保・育成に関する取組（新規就農）	新規就農者の早期経営安定を目的に、巡回指導や、集合研修会を行いました。ねぎ新規就農者を対象とした研修会では、情報交換を通じた交流を促しました。また、大崎農業改良普及センターと共催の農業機械研修会では、生産の効率化や農作業安全の知識・技能の習得を支援しました。	学生 教育機関 農業研修生 新規就農者
グリーンな栽培体系への転換に関する取組（園芸重点）	ハウスへの害虫侵入抑制効果のあるUVカットフィルムと、病害抵抗性品種を併せて導入し、粘着トラップによる発生予察も組み合わせて化学農薬の使用量の低減を図りました。また、現地検討会を開催して会員間でその導入効果を確認しました。	J A新みやぎ みどりの地区 ほうれん草協議会
持続性の高い施設園芸の推進に関する取組（園芸重点）	連作障害の回避に向けて、畦立後太陽熱土壌消毒実証ほを設置し、消毒実施前後の菌密度や消毒後の生育経過について部会で共有しました。また、緑肥のすき込みによる土壌の物理性及び化学性の改善の実証を支援しました。	J A新みやぎ 仙台小ねぎ部会
地域農業担い手の組織化・法人化と経営安定に関する取組（農業経営管理）	法人化を目指す集落営農組織に対し、事業計画やルール作りの検討が円滑に進むよう、関係機関と連携して支援を行いました。また、法人化後間もない経営体に対し、技術情報提供や運営支援を行いました。	対象生産組織
「金のいぶき」による地域活性化に関する取組（地域実情）	県育成の玄米食専用品種「金のいぶき」は、健康機能性とおいしさから年々需要が高まっていますが、収量・品質が不安定という課題があります。当活動では、管内で最も面積の大きい涌谷町に6か所の展示ほを設置し、生育調査や現地検討会での指導を行い、生産安定と産地形成への支援を行いました。	管内「金のいぶき」生産者

花き品評会 受賞おめでとうございます！

令和4年10月、せんだい農業園芸センターを会場に宮城県農林産物品評会及び花き品評会が開催されました。

審査の結果、花き品評会において、大崎市鹿島台の株式会社フローラ平山が出品したトルコギキョウ「エレガンスグリーン」が銀賞を受賞されました。

この度は大変おめでとうございます。

普及センターでは今後も、高品質な農畜産物の安定生産に向けた支援に取り組んでいきます。

